

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇(1階)		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	平成26年2月5日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200536-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の尊敬・感謝する心を基とし、共に学び・支え・歩む事により職員が楽しく笑顔で仕事をさせて頂くことが(イコール)、入居者様に穏やかに笑顔で過ごして頂ける事につながって行くと思っております。常に温い手・温い心・温い思いで大きな家族として関わっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

背高花瓶に活けられた季節の花と、歳時記のように小物で彩られた玄関はホスピタリティにあふれています。新人職員にも看取りに取組む事業所であることを伝え、夜間でも駆けつけてくれる医師の心強いサポートに支えられ、終の棲家として最期まで馴染みの場所で過ごせるよう惜しみない支援が行われています。「救急で搬送された後、此处に戻ってほっとした表情を見せた時の顔が忘れられない」との家族の言葉が示す通り、率先垂範の管理者が掲げる「温い(ぬくい)想い、は、利用者のおおらかさと面会に訪れる家族の笑顔、「身体は大変だけど楽しかったよね」と明るく笑う職員の姿が証明しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関に掲示し、毎朝及びミーティング時に復唱している。	理念は、家族にも見てもらえる場所として玄関やユニット入口に掲示しています。朝礼やミーティングではまず理念を唱和して意識づけを図り、それぞれが考える『温い(ぬくい)』という想いを心に、職員自身が「楽しい」と言えるケアの実践を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会及び自主防災組織に加入し、町内の行事等に参加している。毎月、施設通信(ファミリア)を作成し、西脇町内の回覧板へ入れて頂き、町内の方に閲覧して頂いている。今後、S型デイサービス等にも参加を検討している。	町内の組織に加入していることから夏祭りや防災訓練、敬老会など行事の情報も入り「いつでも声をかけてください。お手伝いしますよ」との声ももらえています。本年度は民生委員の尽力でS型デイサービスへ3名の出席が叶い、地域の人たちと歌やゲームで和むことができました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者、問い合わせの方には解りやすく説明させて頂いたり、困っていることへの対応策などを行っている。今後は地域でキャラバンメイト等出来る様にしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、ご家族、包括等で報告、これからの方向性・予定等話し合いこれからのサービス向上につなげている。	2ヶ月ごとに開催し、地域や家族に向けて薬剤師による『薬についてのミニ講座』や、認知症への理解を深める勉強の場としても活用しています。看取りの取組みを報告した際には、地域包括支援センター職員から成功例として評価されていることが議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加のお願いや相談に乗って頂きアドバイスを頂いている。	市の窓口には毎月出向き、疑問点にも丁寧に応じてもらっており、地域包括支援センターには困難事例の解決に向けての協力が得られています。月に一度訪問する介護相談員には利用者や職員の話が心ゆくまで傾聴され、管理者への報告も成されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしており、朝礼及び毎月のミーティングで拘束をしない介護を常に意識できるようにスタッフに指導している。	夜間を除いて玄関の施錠はありません。ミーティングにおいて、安全優先の「ダメ」という言葉が行動を抑制していないか、何故やってはいけないかの理由を説明しています。まずは職員自らの気づきを促し、行動変容が見られない時は直接指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングで不適切なケアが虐待に繋がっていくことを認識を深めている。又、日々スタッフ間で声を掛け合い不適切なケアの無いように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様、ご家族からの相談事例を、管理者はミーティング時にスタッフに知識として話をする事ができ、又、管理者も行政との連携、研修への参加を通じ理解を深め活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等全ての説明を、入居者様及び御家族様に十分に説明を行い、理解と納得を頂いてから契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の思い、ご家族の思い等を傾聴して、出来る限り思いに近づけるようにしている。カンファレンス時にスタッフ全員で話合っている。	運営推進会議には3～4名の出席があり、家族間の情報交換の場にもなっています。議事録と共に送られる手書きの『ファミリア通信』は、個々に彩色して近況や活動報告を行い、体調変化にはこまめな連絡で家族の信頼関係に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催し、管理者及び職員との意見交換の場を作っている。必要時にはその都度、話し合いをしている。	ボトムアップであるためにもシフトや担当業務については職員から出る意見やアイデアを最優先としたことで“お互い様”の風土が形成され、職員都合でなく利用者の視点に立った提案も増えています。行事や外出計画、献立への意見も活発に挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境改善には取り組んでいる。業務の見直しも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上心を持てる様な研修、講習等の出席やスタッフ同士でのスキルアップ出来るように、お互いのケアを確認し合い意識する様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者の会合を通じて情報収集を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に全職員がご本人様の要望を把握し、安心して生活が出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、ケアマネジャーと面談を行い訴えや相談に耳を傾け、入居者様、ご家族様が安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様及び関係機関からの情報よりアセスメントを行い、まず必要としている支援を見極め適切な支援が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは無理のないように、職員や入居者様同士が一緒に行って頂けるような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「身体状況のお知らせ」を作成し、ご家族様に日々のご様子等をお知らせしている。又行事の案内や必要時にはその都度職員からご家族様にご連絡し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や馴染みの方の面会がスムーズに行えるよう配慮している。外出の機会を作るよう努めている。	S型デイサービスへの参加で地域に暮らす馴染みの友人と再会できる機会が増えました。面会も多く、週末は終日「こんにちは」「また来るね」の明るい声が響き、近況を伝える職員との密な関係構築が覗えました。在宅からの嗜好に沿ってコーヒーマーカーが備えられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共に支え合えるように、職員が間に入り皆様がいい関係を保つことが出来るよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に相談を受けることがある。 又、ご家族が来訪して下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が職員に遠慮をすることなく、ご自身の希望や意向を表せるように心掛けている。困難な場合は、ご本人の心に寄り添い気持ちを把握出来るよう検討している。	日々寄り添うなかで変化する言葉と表情、行動から、意向や想いを掴むよう努めています。利用者同士の関係性から充分表出できない人や認知症の進行に伴う混乱期には、職員の気づきや工夫を話し合い本人本位の暮らしを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話やご家族様との面談において得た情報を、記録、申し送り、カンファレンスを通じ共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、心の変化を常に観察し、少しの変化見逃さず日々の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を収集し、検討課題をケアカンファレンス、モニタリングを通じて、介護計画の見直し、作成を行っている。	状態変化がなければ半年ごとの見直しとしていますが、毎月行うカンファレンスでは利用者毎に課題点を話し合い、ケアマネージャーが現状に即したプランに反映しています。家族には面会や電話を通じて都度要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、特記、申し送りノート、連絡ノート又は口頭での報告、連絡、相談にて情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応、外出の支援、通院付き添い等行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を作っている。買い物や外食をすることもある。積極的な町内行事への参加も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いによるかかりつけ医への受診。施設提携医とは月2回の往診の他、24時間の対応が出来るようにしている。	24時間365日、夜間でも連絡が取れる安心感から9割の人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いしていますが、日常の様子を明確に伝え適切な診断を得るため、管理者も同行しています。歯科医との提携もあり、週に一度の往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康管理と、日頃の気付きを伝え情報を共有し、入居者様に適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、管理者、ケアマネージャーが病院に直接出向き医師及び看護師と情報交換を図り、退院後も安心してホームで暮らして頂けるよう、現状の把握と退院後の生活について相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に十分に説明をさせていただき又、ご本人様の状態変化が見られた、若しくは予想される際には、ご家族様、可能であればご本人様、医師と改めて話し合いをし、方針を共有している。	現在も看取りの段階を迎えている人が居ます。ミーティングでは『看取りに取組む事業所』であることを意識づけ、「最期まで馴染みの場所で」という家族の希望と全面的な協力のもと、夜間でも駆けつける心強い医師の指示を仰ぎつつ安心して納得できる体制を整え取組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、迅速に応急手当、急変時の対応が行えるよう教育をしている。又、提携医及び看護師は24時間体制のコール対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災に参加しホームの防災訓練にも、自治会からも参加して頂いている。	管理者は自主防災組織に加入し、地域防災訓練にも参加しています。事業所内でも初期消火や通報訓練を実施し、運営推進会議の中では避難地について家族に周知され、地域との協力体制も築かれています。有事の折、職員のスムーズな動きに向けて訓練を重ねていく予定です。	新しい職員もいることから、連絡網の再点検や救急救命法の学習が実施されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに敬意を表し、尊厳を守る言葉掛けや対応に努めている。	言葉遣いの外部研修に参加し、その人の暮らしや生き方に合った言葉となるようミーティングで落とし込んでいます。排泄の失敗や入浴時の羞恥心への配慮は徹底し、「～させていただく」気持ちで尊厳を傷つけないよう注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が望んでいることを可能な限り取り入れ、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者様のケアを最優先にし、心地よく安心して過ごせるように意識付けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に衣服を選ぶ、向かいにある衣料品店と一緒に行き本人に選ぶ機会を作る、訪問理容の際には髪型の希望を伺う等、好みに合わせた身だしなみが出来るよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った野菜やホームで採れた野菜を使う、魚や肉は専門店より取り寄せ、行事に合わせたメニューになっている。職員も一緒に食事をし、外食の機会も作る等食生活の楽しみを持ち続けて頂けるよう努めている。	法人本部の管理栄養士が作成したメニューをもとに毎食手作りし、パン食の希望にも応じています。誕生日には個々のリクエストに応え、ケーキでお祝いしています。外食の機会が減っていることから、家族と一緒に食事ができる催しを増やすことが目標です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。一人ひとりの体調を観察しながら、毎日の食事、水分摂取量を記録し適切なバランスや量が保てるよう留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。口腔ケアチェック表にて管理し、希望時には歯科医師の往診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導時の声掛けに留意し、排泄パターンを把握し、失禁を防ぎ可能な限りトイレでの排泄が出来るよう努めている。	夜間のみオムツ使用し、日中はリハパンや布パンツで過ごしています。利用者のパターンや言葉、行動で表れる尿意を把握して失敗のないようにしています。バルーンカテーテルだった利用者が、医療と職員の連携で抜去でき、落ち着いた生活を取り戻せた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保と、乳製品や食物繊維の豊富な食材を多めにメニューに取り入れ、自然排便を促せるよう留意している。指示薬の適切な使用により便秘予防と改善を目指したケアをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り、ご本人様の希望に添えるよう入浴して頂いている。ご本人様のペースを大切にしながら、気持ちよく入浴出来るような雰囲気作りを努めている。	在宅と同じように毎日入浴できる支援を目指しています。一人ひとり湯を張り替えて数種類の入浴剤を準備し、「2時間かけてゆっくり入浴したい」といった要望にも応えています。冬季は寒さからの入浴拒否やヒートショックに留意して暖房器具を設置しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠をとっていただけるような声掛け、環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも服薬情報を確認出来るようにしている。薬の変更があった場合は看護師・職員が情報を共有している。配薬は全職員が行い、誤薬、飲み忘れが無いよう、意識・管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事等、出来ることを無理なく行って頂いている。役割を感じ生活に張りがあるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は、散歩や外気浴をし気分転換をしている。外出、通院時にはご家族様にも協力をして頂いている。	天気や体調によりますが、短時間でも外気浴や散歩を心掛けています。お花見にはワンボックスカーや介護車両を利用して駿府公園の桜ドライブで賑わいました。町内の祭りや近隣施設の夏祭りにも出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いとして預かり、職員が代わりに管理を行っている。ご家族様の判断により、少額の現金をご本人様に所有して頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話にご本人様と代わり話をして頂くこともある。手紙を書きたいとご希望があれば、職員と一緒に文面を考えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるよう、空間、安全への配慮、掃除、換気、職員の立ち振る舞い等、清潔で居心地のよい空間作りに努めている。季節感のある飾り付けをし、季節や行事を感じて頂けるよう配慮している。	背高花瓶に活けられた季節の花と年中行事にちなんだ小物で飾られた玄関は、訪れる人へのホスピタリティが感じられます。壁面には誕生日のお祝いに折り紙で「温い想い」が添えてありました。食事と寛ぎのスペースが分けられ、ソファの配置は居場所作りに配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂等、入居者様がその時の心情に合わせて楽しみながら、居心地よく過ごせるよう席の配置や雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながら、出来る限り馴染みの物を使って頂くよう心掛けています。家族写真を置いている方もいる。	ベッドと整理ダンス、カーテンの他は持ち込まれ、CDラジカセで終日懐メロに聴き入る人もいます。行動心理症状の状態によって、整理が必要な人はその都度不安なく過ごせる環境を整えています。また居室前に置かれたベンチは憩いの場にもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が可能な限り自立した生活が出来るよう、職員は常に自立と安全のバランスに留意し見守り、適切な声掛けと介助、一緒に出来ることの支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇(2階)		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	平成26年2月6日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200536-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の尊敬・感謝する心を基とし、共に学び・支え・歩む事により職員が楽しく笑顔で仕事をさせて頂くことが(イコール)、入居者様に穏やかに笑顔で過ごして頂ける事につながって行くと思っております。常に温い手・温い心・温い思いで大きな家族として関わっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

背高花瓶に活けられた季節の花と、歳時記のように小物で彩られた玄関はホスピタリティにあふれています。新人職員にも看取りに取組む事業所であることを伝え、夜間でも駆けつけてくれる医師の心強いサポートに支えられ、終の棲家として最期まで馴染みの場所で過ごせるよう惜しみない支援が行われています。「救急で搬送された後、此处に戻ってほっとした表情を見せた時の顔が忘れられない」との家族の言葉が示す通り、率先垂範の管理者が掲げる「温い(ぬくい)想い、は、利用者のおおらかさと面会に訪れる家族の笑顔、「身体は大変だけど楽しかったよね」と明るく笑う職員の姿が証明しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関に掲示し、毎朝及びミーティング時に復唱している。	理念は、家族にも見てもらえる場所として玄関やユニット入口に掲示しています。朝礼やミーティングではまず理念を唱和して意識づけを図り、それぞれが考える『温い(ぬくい)』という想いを心に、職員自身が「楽しい」と言えるケアの実践を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会及び自主防災組織に加入し、町内の行事等に参加している。毎月、施設通信(ファミリア)を作成し、西脇町内の回覧板へ入れて頂き、町内の方に閲覧して頂いている。今後、S型デイサービス等にも参加を検討している。	町内の組織に加入していることから夏祭りや防災訓練、敬老会など行事の情報も入り「いつでも声をかけてください。お手伝いしますよ」との声ももらえています。本年度は民生委員の尽力でS型デイサービスへ3名の出席が叶い、地域の人たちと歌やゲームで和むことができました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者、問い合わせの方には解りやすく説明させて頂いたり、困っていることへの対応策などを行っている。今後は地域でキャラバンメイト等出来る様にしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生員ご家族、包括等で報告、これからの方向性・予定等話し合いこれからのサービス向上につなげている。	2ヶ月ごとに開催し、地域や家族に向けて薬剤師による『薬についてのミニ講座』や、認知症への理解を深める勉強の場としても活用しています。看取りの取組みを報告した際には、地域包括支援センター職員から成功例として評価されていることが議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加のお願いや相談に乗って頂きアドバイスを頂いている。	市の窓口には毎月出向き、疑問点にも丁寧に応じてもらっており、地域包括支援センターには困難事例の解決に向けての協力が得られています。月に一度訪問する介護相談員には利用者や職員の話が心ゆくまで傾聴され、管理者への報告も成されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしており、朝礼及び毎月のミーティングで拘束をしない介護を常に意識できるようにスタッフに指導している。	夜間を除いて玄関の施錠はありません。ミーティングにおいて、安全優先の「ダメ」という言葉が行動を抑制していないか、何故やってはいけないかの理由を説明しています。まずは職員自らの気づきを促し、行動変容が見られない時は直接指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングで不適切なケアが虐待に繋がっていくことを認識を深めている。又、日々スタッフ間で声を掛け合い不適切なケアの無いように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様、ご家族からの相談事例を、管理者はミーティング時にスタッフに知識として話をする事ができ、又、管理者も行政との連携、研修への参加を通じ理解を深め活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等全ての説明を、入居者様及び御家族様に十分に説明を行い、理解と納得を頂いてから契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の思い、ご家族の思い等を傾聴して、出来る限り思いに近づけるようにしている。カンファレンス時にスタッフ全員で話合っている。	運営推進会議には3～4名の出席があり、家族間の情報交換の場にもなっています。議事録と共に送られる手書きの『ファミリア通信』は、個々に彩色して近況や活動報告を行い、体調変化にはこまめな連絡で家族の信頼関係に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催し、管理者及び職員との意見交換の場を作っている。必要時にはその都度、話し合いをしている。	ボトムアップであるためにもシフトや担当業務については職員から出る意見やアイデアを最優先としたことで“お互い様”の風土が形成され、職員都合でなく利用者の視点に立った提案も増えています。行事や外出計画、献立への意見も活発に挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境改善には取り組んでいる。業務の見直しも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上心を持てる様な研修、講習等の出席やスタッフ同士でのスキルアップ出来るように、お互いのケアを確認し合い意識する様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者の会合を通じて情報収集を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に入居者様の訴えをご本人様、傾聴、受容、共感し安心して過ごして頂けるよう十分にコミュニケーションを図り、安心して生活出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明時に管理者やケアマネージャーがご家族様と面談を行い、要望や質問等に親身に対応し安心して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態をよく見極め、ご本人様、ご家族様の要望に沿うようサービスの検討、実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯食事作り等、ご本人様が無理なく出来ることをスタッフと一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「身体状況のお知らせ」を作成しご家族様にご様子を伝えたり、行事の案内等のご連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者の面会、外出が円滑に行えるよう努めている。	S型デイサービスへの参加で地域に暮らす馴染みの友人と再会できる機会が増えました。面会も多く、週末は終日「こんにちは」「また来るね」の明るい声が響き、近況を伝える職員との密な関係構築が覗えました。在宅からの嗜好に沿ってコーヒーメーカーが備えられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のコミュニケーション、年間行事やレクリエーションなどを通じ、皆様が一緒に楽しめるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に相談を受けることがある。 又、ご家族が来訪して下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションを図る中で、ご本人様の心に寄り添い、望まれていることを把握、実践出来るよう心掛けている。	日々寄り添うなかで変化する言葉と表情、行動から、意向や想いを掴むよう努めています。利用者同士の関係性から充分表出できない人や認知症の進行に伴う混乱期には、職員の気づきや工夫を話し合い本人本位の暮らしを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話やご家族様との面談において得た情報を、記録、申し送り、カンファレンスを通じ共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録、日々の状態観察にて一人ひとりの生活、心身状態に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を収集し、検討課題をケアカンファレンス、モニタリングを通じて、介護計画の見直し、作成を行っている。	状態変化がなければ半年ごとの見直しとしていますが、毎月行うカンファレンスでは利用者毎に課題点を話し合い、ケアマネージャーが現状に即したプランに反映しています。家族には面会や電話を通じて都度要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、特記、申し送りノート、連絡ノート又は口頭での報告、連絡、相談にて情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応、外出の支援、通院付き添い等行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を作っている。買い物や外食をすることもある。積極的な町内行事への参加も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いによるかかりつけ医への受診。施設提携医とは月2回の往診の他、24時間の対応が出来るようにしている。	24時間365日、夜間でも連絡が取れる安心感から9割の人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いしていますが、日常の様子を明確に伝え適切な診断を得るため、管理者も同行しています。歯科医との提携もあり、週に一度の往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康管理と、日頃の気付きを伝え情報を共有し、入居者様に適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、管理者、ケアマネージャーが病院に直接出向き医師及び看護師と情報交換を図り、退院後も安心してホームで暮らして頂けるよう、現状の把握と退院後の生活について相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に十分に説明をさせていただき又、ご本人様の状態変化が見られた、若しくは予想される際には、ご家族様、可能であればご本人様、医師と改めて話し合いをし、方針を共有している。	現在も看取りの段階を迎えている人が居ます。ミーティングでは『看取りに取組む事業所』であることを意識づけ、「最期まで馴染みの場所で」という家族の希望と全面的な協力のもと、夜間でも駆けつける心強い医師の指示を仰ぎつつ安心して納得できる体制を整え取組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、迅速に応急手当、急変時の対応が行えるよう教育をしている。又、提携医及び看護師は24時間体制のコール対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災に参加しホームの防災訓練にも、自治会からも参加して頂いている。	管理者は自主防災組織に加入し、地域防災訓練にも参加しています。事業所内でも初期消火や通報訓練を実施し、運営推進会議の中では避難地について家族に周知され、地域との協力体制も築かれています。有事の折、職員のスムーズな動きに向けて訓練を重ねていく予定です。	新しい職員もいることから、連絡網の再点検や救急救命法の学習が実施されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守れるような声かけや対応に常に留意し、心地よく穏やかに生活して頂けるよう心掛けている。	言葉遣いの外部研修に参加し、その人の暮らしや生き方に合った言葉となるようミーティングで落とし込んでいます。排泄の失敗や入浴時の羞恥心への配慮は徹底し、「～させていただく」気持ちで尊厳を傷つけないよう注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思いを表せるような声かけ、言葉に出来ない思いを心に寄り添い、受容、共感し引き出せるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に職員には入居者様の心身のケアを優先するよう指導している。 一人ひとりの生活のペースに合わせた対応をし、心地よく過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に衣服を選ぶ、訪問理容の際には髪型の希望を伺う等、好みに合わせた身だしなみが出来るよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った野菜やホームで採れた野菜を使う、魚や肉は専門店より取り寄せ、行事に合わせたメニューになっている。職員も一緒に食事をし、外食の機会も作る等食生活の楽しさを持ち続けて頂けるよう努めている。	法人本部の管理栄養士が作成したメニューをもとに毎食手作りし、パン食の希望にも応じています。誕生日には個々のリクエストに応え、ケーキでお祝いしています。外食の機会が減っていることから、家族と一緒に食事ができる催しを増やすことが目標です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。 一人ひとりの体調を観察しながら、毎日の食事、水分摂取量を記録し適切なバランスや量が保てるよう留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。口腔ケアチェック表にて管理し、希望時には歯科医師の往診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめな声掛けと、排泄パターンを把握に努め、失禁の予防とトイレで排泄出来るよう配慮している。	夜間のみオムツ使用し、日中はリハパンや布パンツで過ごしています。利用者のパターンや言葉、行動で表れる尿意を把握して失敗のないようにしています。バルーンカテーテルだった利用者が、医療と職員の連携で抜去でき、落ち着いた生活を取り戻せた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保と、乳製品や食物繊維の豊富な食材を多めにメニューに取り入れ、自然排便を促せるよう留意している。指示薬の適切な使用により便秘予防と改善を目指したケアをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り、ご本人様の希望に添えるよう入浴して頂いている。ご本人様のペースを大切にしながら、気持ちよく入浴出来るような雰囲気作りに努めている。	在宅と同じように毎日入浴できる支援を目指しています。一人ひとり湯を張り替えて数種類の入浴剤を準備し、「2時間かけてゆっくり入浴したい」といった要望にも応えています。冬季は寒さからの入浴拒否やヒートショックに留意して暖房器具を設置しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して、安心して休息、睡眠をとっていただけるような声掛け、環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも服薬情報を確認出来るようにしている。薬の変更があった場合は看護師・職員が情報を共有している。配薬は全職員が行い、誤薬、飲み忘れが無いよう、意識・管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事等、出来ることを無理なく行って頂いている。毎日の体操、レクリエーションにて生活に張りが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は、散歩や外気浴をし気分転換をしている。外出、通院時にはご家族様にも協力をして頂いている。	天気や体調によりませんが、短時間でも外気浴や散歩を心掛けています。お花見にはワンボックスカーや介護車両を利用して駿府公園の桜ドライブで賑わいました。町内の祭りや近隣施設の夏祭りにも出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いとして預かり、職員が代わりに管理を行っている。ご家族様の判断により、少額の現金をご本人様に所有して頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話にご本人様と代わり話をして頂くこともある。手紙を書きたいとのご希望があれば、職員と一緒に文面を考えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるよう、空間、安全への配慮、掃除、換気、職員の立ち振る舞い等、清潔で居心地のよい空間作りに努めている。季節感のある飾り付けをし、季節や行事を感じて頂けるよう配慮している。	背高花瓶に活けられた季節の花と年中行事にちなんだ小物で飾られた玄関は、訪れる人へのホスピタリティが感じられます。壁面には誕生日のお祝いに折り紙で「温い想い」が添えてありました。食事と寛ぎのスペースが分けられ、ソファの配置は居場所作りに配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂等、入居者様がその時の心情に合わせて楽しみながら、居心地よく過ごせるよう席の配置や雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながら、出来る限り馴染みの物を使って頂くよう心掛けている。家族写真や写真集、仏像を置いている方もいる。	ベッドと整理ダンス、カーテンの他は持ち込まれ、CDラジカセで終日懐メロに聴き入る人もいます。行動心理症状の状態によって、整理が必要な人はその都度不安なく過ごせる環境を整えています。また居室前に置かれたベンチは憩いの場にもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が可能な限り自立した生活が出来るよう、職員は常に自立と安全のバランスに留意し見守り、適切な声掛けと介助、一緒に出来ることの支援を行っている。		